



# 熊本支部報

(社) 日本山岳会熊本支部

No. 33 平成27年1月17日  
 発行 (社) 日本山岳会熊本支部  
 熊本市南区野口 2-13-7  
 安場俊郎方  
 電話 096-357-1236  
 発行者 松本 莞爾  
 印刷 ベストプロセス

## 目

1. 御嶽山の惨事に想う……………松本 莞爾
2. 阿蘇での暮らしから……………工藤 文昭
3. 平成26年度支部合同会議報告…事務局
4. ドイツ人と阿蘇……………山本 直
5. 潤沢の想い……………芥川 文郎
6. 薬師岳登山……………原田 榮作
7. 北アルプス 槍ヶ岳登山……………池田 清志
8. 雲南省花園ハイキング旅行報告…宇都宮信夫

## 次

9. 海外登山の注意事項……………宇都宮信夫
10. 最近の山行状況……………石井 文雄
11. 近況を報告します……………永谷 誠一
12. 夏山登山報告書……………千々岩泰子
13. 山を眺める旅……………門脇 愛子
14. 会務報告・支部事業計画……………事務局
15. 秋津山の会帯同登山報告……………事務局
16. 編集後記

## 御嶽山の惨事に想う

8411 熊本支部長 松本 莞爾

この度の御嶽山の火山噴火に多くの犠牲者が  
 出ました。秋の行楽シーズンに痛ましい火山の事  
 故は山岳遭難と云うより、自然災害の脅威を見せ  
 つけた感じです。3年前の東日本大震災といい、  
 夏の広島市の大災害といい、自然の猛威は計り知  
 れない大きな犠牲を伴っています。小笠原西ノ島  
 沖新島も2013年12月の海底火山の噴火によ  
 り、元々あった西ノ島を飲み込み、大きな火山島  
 が出来てきました。さらには霧島連山の新燃岳の  
 噴火もつい最近の噴火でした。東日本大震災との  
 関連があるかどうかは、専門家でもわからないと  
 云っています。しかしながら火山列島の上にこの  
 日本はあり、数万年のスパンとはいえ、これらの  
 大自然の脅威にさらされているのは事実です。

山登りを趣味として大自然の中に身を置く私た  
 ちはいつ何時この自然の猛威に出会うかわかりま  
 せん。いつも気軽に山野草を求めて山に入ったり  
 3000m級の高山に挑戦して山の醍醐味を満喫  
 し、思い出を作っています。当然山岳遭難に対す  
 る備えは皆さん心得ておられるとは思いますが、  
 この数年の大自然の脅威は避けようがありません。  
 今回の御嶽山の事故は遭難と云うより「災難」と  
 しか言いようがありません。熊本の阿蘇山では常  
 に噴煙がたなびき、周りには沢山の測定器具が設

置され、24時間体制で火山活動を監視していま  
 す。現在、レベル2で火口周辺1Km以内の立ち  
 入りは規制されていますが、それも自然に対する  
 備えとしては十分ではありません。規制が解除さ  
 れても天候によっては火山ガスが砂千里ヶ浜へ流  
 れてガス中毒に危険を感じた方もおありかと思  
 います。今回の御嶽山では、そんな兆候もなく紅葉  
 の時期と重なり、ましてや、汗をかいて登ってき  
 て楽しい昼食時に突然と噴火したのだから、逃げ  
 ようもなかったと思います。本来ならば地獄谷へ  
 吹き出す噴煙も、この季節特有の北西の風に乗っ  
 て百数十名が憩っている山頂へ降り注ぎました。  
 噴火口から数百メートルの所で軽トラック並みの  
 噴石が飛んできたのでどうしようもない状態だっ  
 たと思います。岩陰に身を潜めても砕けた噴石は  
 横からも下からも飛び散り、避けようもないこと  
 は想像できます。また、火山ガスや噴煙で視界が  
 なく、身も凍るような状況が目には浮かびます。こ  
 の噴火が夜であればほとんど犠牲者はなかったと  
 も思われ、また火山噴火予知が少しでも早くレベ  
 ル2以上になっていれば、少しは犠牲者の数は少  
 なかったと思います。日本の現在の火山予知は低  
 いといわれていますが、自然災害の猛威はいつな  
 んどき襲ってくるかわかりません。私達登山愛好

家は常に自然の脅威にさらされ、山に登っています。正直言って登山知識や技術に関しての遭難対策は何らかの機会を通じて勉強し、その対策もしています。火山噴火や地震については意外と無頓着の所があるのはゆがめません。

個人の山登りも当然ですが、グループの登山においては個人の自己責任とともに企画者の責任が問われます。支部では山岳保険の加入や、事故防止対策をある程度薦めています。今回のような事故に対しては無力の感がゆがめません。現在、会では保険の勧誘とともに計画書の提出をお願いしておりますが、会としての山行では担当者が下見をし、計画を練って実施していますが、その責任の重さは、計り知れないものがあると自覚しなければなりません。こんなことを書くと担当のリーダーになる人が出てきませんのでなかなか難しい問題ですが、ある程度のリスクを伴うこれらの事業は「山に登らなければ遭難しない」で簡単に解決しますが、そうはいかないでしょう。山を愛し自然との触れ合いに生きがいを感じ、山野草を愛し、アドベンチャーに憧れ、素晴らしい登山ライフを楽しむためには、それなりの備えと注意が必要です。天気恵まれ、季節恵まれ仲間恵まれ、四季折々の山の魅力に取りつかれた私たちは、それでも山に登っています。

日本山岳会には自由な登山活動が保障され、好きな時に好きな山に登ることができます。ところが今回のような災害が起こると、仲間がその災害に巻き込まれていないだろうか、新聞の名前を探ることがたびたびあります。これは今回の災害だけではなく、山での遭難と聞くとそのたびに気になります。本部では今年の支部長会議で支部としての登山活動に際しては「計画書」を提出してほしいと連絡がありました。本来、自由な登山ライフを楽しめる会にも会としての把握が要請され、多少窮屈になりますが、基本的には「登山」の際には「登山計画書」を家族や、関係部署に提出して連絡しておくのが当たり前かもしれません。

熊本支部の支部活動では担当リーダーが綿密な計画書を作り配布しておりますが、今後は本部に

提出をすることになります。

また、最寄りの警察又は登山口の届け箱等にも届けておく必要があります。(支部では警察等への届けはしていませんでした。反省・・・) 個人山行にしてもこれは大切なことで、何らかの計画等は家族、友達へ連絡しておくことが必要だと思います。現在、支部では個人の山行やグループでの山行に計画書や計画の連絡は義務付けていませんが、今後、支部会員・会友の仲間と登山される場合は支部事務局への連絡又は計画の届けがあれば、いざと云う時の何かに役立つものと思われま。また、支部としては会員会友の皆さんが、活発な登山活動されている姿が記録に残せることとなります。このことについては役員会で検討し、総会等で提案、皆さんの同意を得たいと思います。

幸いに支部活動の中では遭難事故が起こっていませんが、初代支部長の北田さんが個人山行で阿蘇の鷲ヶ峰で遭難されていますし、数年前はある会員がスイスへ登山にいったまま、帰国しておられません。家族の方は遭難として捉えられていませんので、行方不明のままになっています。この会員はベテランの登山家ですが、スイスへ行かれたのは個人山行と云う事で、支部としては計画書を受け取っていませんでしたので、捜索等の手配が出来ませんでした。こんなことで何らかの形で「把握」をしておかなければならないか思案のしどころです。

御嶽山の惨事ではまだ行方不明の方が数名おられ、来年の雪解けを待っての捜索となりそうですが、登山された方の中で半数近くは登山届がされていなかったと聞いています。それが捜索の時間がかかったようです。九州では阿蘇をはじめ、九重、霧島など火山地帯を登山対象としている部分があり、今回の事故を教訓に再度基本に立ち返り、皆様のご協力をお願いし、楽しい山登りの中で安全登山の推進と、自己の研鑽を図るよう努力しなければなりません。



## 阿蘇での暮らしから

8190 工藤 文昭

終の棲家…阿蘇は高校2年の頃から通い始めていたので、阿蘇との付き合いはかれこれ60年になる。人事異動の際も、転勤するなら「阿蘇以外には行きません」なんて我儘を言わせてもらっていたが、当時はそれが通る時代だった。74年の春に転勤となり、赴任先は希望通り阿蘇地区になり、それから16年間も阿蘇で暮らすことが出来た。学生時代は夏休みなど定期券を買って阿蘇の山に出掛けた月もあったが、あれだけ通っていた阿蘇のことは何でも分かっているつもりで宮地に移り住んだが、阿蘇に住みついてみてわかることの多さに驚いた。春になると阿蘇五岳や外輪山の山肌を草の新芽が日々少しずつ這い上がるに感動したのも阿蘇に住みついて気付いたことだった。土曜日は午後からでも一山登れる楽しさもあった。

阿蘇の生活が10年を迎えたころ、終の棲家は阿蘇にしようと思うようになると、すぐに宮地駅近くの阿蘇五岳が望める、展望の良い土地を見つけ、家を建ててしまった。当時、周辺には1軒の家もなく、庭から根子岳や高岳が正面に望め、五岳の借景が素晴らしかった。しかし、その後周辺に家が建ち借景を奪われることになったが、2階に上がると昔と変わらない阿蘇の風景が望める。

建築後5年経った頃、熊本市内に転勤になり、多忙さもあって、中々阿蘇の家に帰れなくなった。99年には退職をしたが、近くに住んでいた親の面倒も見なければならず、この数年は介護にも手がかかり、阿蘇に帰ることも少なくなった。昨年の秋に親も他界し、今年5月からやっと阿蘇の家に帰ることが出来ました。今年は雨が多く、特に週末に降ることが多かったが、熊本の暑さもなく、さして夏の暑さを感じないまま秋を迎えてしまった。

ウォーキングコース…家移りの整理に時間がかかり、運動不足になり、山登りもきつく、肩や腰の痛みまで出てくる。これではいけないと天気の良い日には2時間程度の散歩に出掛けることにした。最も使うコースは根子岳道路の最後の別荘地あたりまでが多く、時々、日の尾峠やヤカタガウド入り口で引き返したり、またはR265号に迂回することもある。その他、二束牧から仙酔峡道路に出る一周コースも歩く。どのコースもある程度の傾斜があり、登り下りとも脚への負荷が強く、山登りのトレーニングには最適である。それに阿蘇の山々や草原の野の花を楽しみながら、季節の移ろいを肌で感じながら歩けるのも幸せ感到に満ち溢れる。

阿蘇山の登山…単独や時には地元の方々と出かけるが、3年前の大水害の爪痕は大きく、高岳

にしても、今登れるルートはバカ尾根と砂千里コースに限られていた。しかし、この頃は火山活動による登山規制のため、仙酔峡からのバカ尾根コースだけになっている。日の尾峠コースも水害の時の地滑りでコースはなくなり登山は不可能となった。そのような状態で、最近阿蘇山への登山者もめっきり減少したように思える。

一方、根子岳も正面のヤカタガウドが同じ水害で、竿河原上部の急斜面が剥げ落ちて、岩壁化してしまい、一般の人はまず取りつけない。根子岳は阿蘇五岳の中でも、他の4つの山と違う古い山で、浸食も激しく、今は地獄谷から登る以外ない。

先日、前原牧場コースを1人で登ったが、このコースは最も短いですが、取りついたら最後ま



で急斜面の連続で、以前に比べるとコースもかなり荒れていた。どなたかがコースのほとんどにトラロープやザイル、帯紐などをセットしてあったが、それもかなり劣化していて危険と思われる箇所が幾つもあった。どの山も同様だが、フィックスロープについては注意を怠ってはならない。また、このコースの両側は山麓まで続く大きな地滑りが何箇所もあり注意をしなければならない。東峰からの展望は依然と変わらず最高で、いい山登りが出来た。

西側の烏帽子岳、杵島岳、往生岳等は何の問題もない。特に烏帽子岳は東尾根から草千里に下るコースも整備され、快適な登山コースとなった。

山の遭難…現在の登山人口は様々な機関から発表されているが、その正確度はわからない。敢えて発表の数値を見て推測するなら、900万～1000万人前後ではなかろうか。登山者の増加につれて遭難者も毎年増加の一途を辿り、年間3000人を向うところまで来ている。熊本県内でも今年は5名の死亡者をだし、この秋にはバカ尾根での滑落事故、11月には鷲ヶ峰の滑落と続いた。両方ともヘリで救助されたが、県内各地にもいくつかの事故が発生した。わが会の会員に発見された遺体は未だに身元もわからず、もちろん登山届も提出されていなかった。今年県内で発生した事故に共通することは、遭難者の誰もが登山届を提出していなかった。どの山に、どのコースから、だれが何時、何人で入山し、どのコースを下山するかなどの行動計画等がハッキリしていれば、救助活動は早く、助かることも期待できたかもしれない。阿蘇の登山口に設置されている登山届の提

出箱を開いてみても、記録する人はごく少数のようで、少しもページが進んでいない。9月27日に突然の爆発を起こし、54名の死者・行方不明者を出した御嶽山の時も、登山計画書を提出していたのはその日の登山者の1割程度で、それから計画書の提出を求める動きも活発になっている。47都道府県に登山届提出の義務化をしてはどうかとのアンケートを問ったところ、新潟、長野県が賛同したくらいで、その他の県では提出の義務化に消極的だった。理由は「提出が面倒になると来県者が減少する」という心配だったと報じられていた。人の命を大切にするのか、観光客を増やすのが大切と考えるのか、私は答えははっきりしていると思う。これまで疎かにしてきた「登山計画書の提出」は、わが支部としても今後は登山者のマナーとして取り組まねばならないことだろう。同時に、計画書を家族に残しておくとか、周囲のだれかに話しておくことも大切ではないかと思う。

阿蘇に住みついて気にかけていることが一つあり、これまで根子岳の竿川原あたりまで何回か足を運んだ。昨年の4月にこのあたりで遭難されたT氏の消息が未だ分からず、纏った雨が降れば出かけることにしている。彼の場合は、姉に山に行くことは伝えていたが、根子岳道路のツベツキ谷から少し進んだところに車がデポされていて、周囲には山から流出した石ころに囲まれて発見された。それ以前に、水害の地滑りで消失したヤカタガウドのルートを開拓しようと現地に通われていたことが判明し、捜索隊がその谷奥に入り、新たに露出した岸壁にセットされた彼のザイルを発見し、遭難現場の特定がなされた。竿河原周辺は3年前の水害とその後の大雨で、全く違った地形に変化しているが、谷は、土石流で大小の石や土砂で埋まり、多分その堆積物の中に埋没していると思われる。切断されたザイルの一部が、その堆積物の中からも発見されたが、多分、岸壁を登攀中に事故を起こして動けなくなり、その後、大きな土石流が発生し、その中に巻き込まれたのだろう。現場は極めて危険なところで、堆積物を掘り返すこともできず、表に出る可能性は次の大雨で土石流が再度発生する時以外にないだろう。今年の夏も多雨だったものの、谷の堆積物を動かすような雨はなかった。9月にヤカタガウドに入ると、ノリウツギの純白の花が咲き乱れ、T氏に手向けられているようだった。その後彼の親族の方にも接する機会があったが、彼の悲惨な遭難事故を引きずられて、いまだに悲しみは続いているようであった。山の遭難がどんなに悲しいことか、教えていただいた。わが支部も山の危機管理には本腰で取り組まなければならない。

### 阿蘇山 22年年ぶりのマグマ爆発……

11月25日、中岳火口が爆発し、阿蘇全域から熊本市までも火山灰を降らせている。我が家は火

口から約6kあるが、車は黒くなり、布団や洗濯物も干せないくらいの降灰が続いている。中岳火口は、昨年からの活動の兆しがみられ、登山規制を繰り返していた。特に最近は噴煙の量や高さにも変化があり爆発の兆候を感じていた。爆発後、いつもの根子岳コースを歩いたが、道に積もった火山灰を車が走るたびに巻き上げられ暫く歩いたら目の痛みを感じたり、咽がおかしくなったりと身体の異常が見られた。近くの農家では、巻物の野菜に灰が侵入し、出荷できないと嘆いておられた。草原の牛の放牧も、最近では周年放牧が増えているが、火山灰を含んだ草を食べると体調を壊し、牛の成長を阻害するというので、家の畜舎に戻されていた。熊本空港に発着する航空機にもエンジントラブルの要因になると、欠航便まで出てい



噴煙を上げる阿蘇中岳

る。自然の脅威の凄さを感じる。89年の噴火の時は6年間も続いたという記録もあるが、なるべく早く収束してくれることを願いたい。

こんな阿蘇でも、終の棲家として帰れたことには満足している。ただ長年熊本市内に住みついてきたためか寒さへの抵抗力を失くして、今年の冬はえらく寒く感じる。しかし、一冬我慢すれば、また、寒さにも強くなり、春の訪れを殊の外嬉しく迎えることができるようになれそうです。その前に「冬眠」季節を楽しみましょう。

### 日本山岳会編『新版日本三百名山』の特別割引販売について

昨年より各支部が担当し、『新日本三百名山』ガイドブックが7月に刊行しました。熊本支部からは工藤顧問を中心に廣永会員、中林会員、田北会員が調査執筆し原稿を提供しています。この三百名山は上中下の3巻からなり九州の山は下巻に掲載されています。1巻2300円×3巻ですが、著者特別価格で1冊1610円(7掛け)で購入できることになりました。ご希望の方は事務局までお申し込みください。

## 平成26年度支部合同会議

さる9月20日(土)21日(日)の2日間、支部合同会議が東京千代田区のプラザFで開かれました。熊本支部からは、松本支部長と安場事務局長が出席をしました。会議は森会長のあいさつの後、会務報告がありその主な内容は①当会の組織体制について、PTチームの組織の見直しを行ったこと。②次期人事の基本方針については70歳年齢制限は現行通り踏襲する、役員への信任投票を導入する。③会員の動向については高齢化が進んでいる実態を報告。④寄付金助成金。⑤支部事業費については新入会員1人あたり4000円を支部へ還元する。また次期リーダー等の養成事業に対しては助成金を交付する。⑥110周年記念事業については尾上前会長を実行委員長としてPTを発足する。⑦登山計画書の提出については今後支部が主催する山行はすべて事前に本部へ報告するなどの説明があった。

連絡事項では新入会員の入会時期により12000円を月割りで納入することができることになった。また、年会費の納入は銀行振り込み制度を利用してほしいとの依頼があった。

1. 日 時 平成26年9月20日(土)～21日(日)  
 <20日> 13:00～17:30 (受付12130)  
 (18:00より懇親会 プラザエフラウンジ)  
 <21日> 9:00～15:00

2. 場 所 <20日><21日> プラザエフ会議室

### 3. 議事

会長挨拶

#### ① 会務報告

- 1) 当会の組織。配置1について
- 2) 次期人事の基本方針について
- 3) 会員動向(高齢化が進む日本山岳会)について
- 4) 寄付金。助成金などの受入れについて
- 5) 支部事業への交付金制度について
- 6) 110周年記念事業について
- 7) 登山計画書の提出及び事故連絡について
- 8) 連絡事項

- 1) 支部長交代について
- 2) 新入会員。会員種別・月別会費について
- 3) 口座振替利用願いについて
- 4) トレイルラン事業への名義後援について
- 5) 上高地山岳研究所関係報告について
- 6) 三百名山登山ガイドの印税について
- 7) 団体登山保険手続きについて
- 8) HPの利用について
- 9) 2014年年次晩餐会イベント企画のご案内
- 10) 全国ボランティア登山(障害者支援登山)

平成26年9月20日

<20日> 13:00

情報交換会について(東海支部)

公益認定等委員会だより」に当会掲載について

12 当会グッズ一覧表について

13 事務局より

9) その他

② 支部活性化を考える

1) 本部の方策・支部の展開

15:001 新入会員の入会金の一部支部還元

2 支部事業補助制度(東京多摩・山陰・広島等)

3 110周年記念事業(支部海外登山隊等公募、三百名山登山ツアー・新日本山岳誌第2版の協力要請)(東海・埼玉等)

4 「山の日」制定(山陰、東海等)

5 YOUTH CLUB 安全登山普及講習会等

6 家族登山普及ツール

7 支部登山指導者講習会

その他支部活動(四国等)

<21日> 9:00

支部友(支部会友)制度について

1 アンケート集計

2 支部友制度の目的

3 支部友制度の問題点

4 本部で支部友の位置づけした場合

支部活動(会員増強。次期リーダー育成)について(アンケートによる発表)

新入会員の獲得困難な支部の事情について

質疑応答 13100

その他

(30回埼玉支部。来年度31回四国支部)

(土)平成26年度支部長会議し年次晩餐会

(新宿京王プラザホテル)

- ・平成26年12月27年度支部事業計画・予算提出
  - ・平成27年1月平成27年度支部事業計画・予算提出
  - ・平成27年1月平成26年度支部事業報告・会計報告
  - ・平成27年2月下旬平成26年度支部事業報告提出
  - ・平成27年3月下旬平成26年度支部会計報告提出
  - ・平成27年6月下旬平成27年度支部総会報告期限
- 。平成27年6月20日(土)平成27年度通常総会
- ・平成27年12月5日(土)設立110周年記念式典

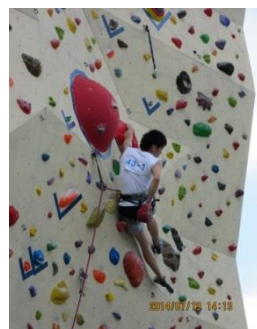
#### 4. 事務連絡

1) 全国支部懇談会について

2) 今後の主な日程

・平成26年12月6日 支部長会議

・平成26年12月6日 年次晩餐会



## ドイツ人と阿蘇

### 15435 山本 直

10年ほど前、友人の紹介でホストファミリーをすることとなった。

やってきたのは、なかなかカッコイイ、ドイツ人の高校生の男の子。金髪・青い目・身長は外国人としては高くないがそれでもかなりある。言葉は、もちろんドイツ語。ただし、英語もかなりでき、話すのも書くのも不自由なし。一方、我が家は、ドイツ語などとても無い、英語は家内が少々。もちろん、いきなり外国人が来るのではなく、事前にお互いの情報のやり取りがあるわけであるが、その際、「山に登るかもしれないので、持っていたら、登山靴を持って来るように」と連絡しておいた。

さて、2004年3月27日(土)にドイツ人「ヨリア」君到着。聞けば、ちゃんと靴を持って来ているとのこと。早速、一週間後の4月3日(土)、二人で山登りをする事とした。

彼が来て1週間、日本語は、まだまだなので、(早くも、1ヶ月で日常会話での不自由さはなくなったが)コミュニケーションの道具は、電子手帳。お互いに言葉を打ちこみ、英和辞典・和英辞典を駆使して、コミュニケーションを図る。例えば、阿蘇は火山であると説明する場合、火山と打ちこみ、「Volcano」と辞書の画面に表示されるのを、見せるという具合に。私の英語の発音がいい加減なので、話すより、単語を見せる方が確実。

ところで、熊本で山と言ったら、「何がなんでも阿蘇だ」ということで、最初の登山は高岳へ決めた。ドイツには温泉はあるが、火山は無いようで、もちろん見たことは無い。

高岳からの下山途中、中岳の火口周辺を通る際、火口をまともに覗き込むことになる。白い噴煙、さまざまな色が重なりあい、複雑な形の火口、独特の匂いなど、とにかく非常に驚いた様子で、写真を何度も撮っていた。初めて日本の山に登り、感動されるのは、なかなかうれしいもので、連れて行ったかいがあったというものである。

#### 所要時間

我が家出発 7:00→仙酔峡 9:00→高岳山頂 10:50(昼食)  
下山開始 11:30→仙酔峡 13:00→我が家 15:30(途中、かんぼの湯で風呂)

その後、彼が帰国する約1



年の間に、友人たちとも含めて、15回の山行を重ねることとなった。

その彼が、今年5月10年ぶりにやって1週間ほど滞在することとなった。今、大学医学部の学生で、研修のため来日したが、帰国前に、我が家へ寄るということである。金髪・青い目は変わらないが、口髭・顎髭を生やし、10年前とうってかわって、貫禄のある体型となっていた。

また、阿蘇も、現在登山規制となっており、火口を覗くこともできそうにない。

## 涸沢の思い出

会友 芥川 文郎

数年前、紅葉の盛りに涸沢へ行った。横尾からしばらく歩くが、その先は人の渋滞で、前進できない。心ならずも横尾まで退く。

明朝早起きして、涸沢に着く。一点の雲なき紺碧の空に、映える紅葉の美しさは、ただただ見とれるだけで、言葉もない。

自然はこれほどまでに、見事な景観を用意していたのだ。いつまでも眺め続けて、去り難い思いであった。

涸沢に紅葉の錦織りなせば遊山の列は  
果てもなきかな  
涸沢の燃える紅葉を身にまとい  
穂高の山は天を突きつつ



## 随想

## 薬師岳登山

14213 原田榮作

## 9月9日(火) 広い駐車場は満杯状態

亀谷温泉国民宿舎白樺ハイツのすぐ近くの料金徴収所が6時開門だったので、朝食抜きで5時45分には白樺ハイツを出発した。料金徴収所の手前には既に10台ほどの車が開門を待っていた。2人の係員が5時50分には開門の準備を終えたようだが、6時開門という規定があるからであろうか、話をしたり、手足の屈伸をしたりしながら事務所との間を行ったり来たりしていた。

私の車の後ろにも10数台が待っていた。20~30台もの車列をなして待っているのだから準備が出来たら10分前であっても開門してよさそうなのにと、早朝からいらいらした気持ちにさせられた。こう云うのをお役所仕事と云うのだろうか。

料金徴収所から折立の駐車場まで約40分、レンタカーを走らせた。到着してみると私の予想が外れた。20~30台は来ているだろうかと思っていたが、広い駐車場は既に満杯状態で、空きを見つけるのに苦労するほどだった。今朝、登った人だけではなく数日前ら登山している車があることを予想していなかった。事実、私も今日車を置いて、下山するのは14日だから、都合6日間はここに駐車していることになるのだ。急いで準備をして出発することにした。その時、これから登る準備をしている登山者は数パーティーだけだった。

## 6日間の長い登山の初日だから

7時に標高1350mの折立登山口を出発した。登山口のすぐ近くに「十三重之塔慰霊碑」が大きく目に入ってきた。説明によると「昭和38年1月、薬師岳登山を目指していた愛知大学山岳部員13名が想像を絶する猛吹雪と寒波の為、遭難死した」と書かれていた。私と妻は立ち止まって手を合わせた。登山口の折立からの登山道は、素晴らしいブナ林だった。これから6日間も歩き続けることになるので、ゆっくりゆっくり、登った。後ろから単独登山の人が数名、夫婦らしき中高年の男女が3組迫ってきたので道を譲った。単独登山の人とはとにかく健脚で、先ほど道を譲ったのにいつの間にか姿が見えなくなり、鈴の音も聞こえなくなっていた。案内書によると1870m地点の三角点まで、約500mの急登になっていた。コースタイムは1時間30分となっていたが、2時間を要した。三角点でザックを降ろして休憩していると、今朝、太郎平小屋から下りてきたという登山者が、「あれが立山で、あれが剣岳です」と教えてくれた。平成17年8月に登った立山と剣岳があの方に見えるのかと思いだした。また、

「薬師岳の登山道には熊がいましたので注意された方がいいでしょう」とわざわざデジカメを開いて見せてくれた。かなりのベテランのように見えた。

三角点を過ぎると草原が主体の道に変わり、緩やかな登りになった。五光岩ベンチを過ぎて、太郎兵衛平は、もうすぐだろう、もうすぐだろうと思いつつ、ハイマツの中を歩いたり、木道を歩いたり、ヘリコプターで運び上げたであろう角のとれた川石で整備された登山道を歩いたりしたが、なかなか太郎兵衛平は姿を現さなかった。登山道は比較的なだらかで、左右の景色が見渡せたので時間を架けながら登った。太郎兵衛平については12時25分で、折立を出発してから5時間25分を要していた。案内書のコースタイムは5時間となっていたので我ながらよく頑張ったと納得した。

## 薬師岳山荘まで頑張る

太郎兵衛小屋に泊まるか薬師岳山荘まで行くか妻と相談した。薬師岳山荘までコースタイムでは2時間10分とあるので時間的には4時までには山荘に入れそうだったが、あとは私の体力の問題だった。結論として妻が「少し無理してでも今日のうちに薬師岳山荘まで行っておればその後の日程が楽になるよ」と云うので頑張ることにした。白樺ハイツでもらったおにぎりを食べて、12時50分に太郎兵衛平を出発した。しばらく登った後、下ったところに水場とトイレ、その近くにキャンプ場があった。カラフルなテントが5~6張張られていた。その後は薬師岳山荘までだらだらな登りが続いた。それまで元気だった妻は太郎兵衛平までの疲れが出たらしく立ち止まることが多くなった。稜線をジグザグに登っていると右下200mくらいの所に黒色の大きいものとそれより小さいものが上の方に向かって動いているのが目に入った。熊の親子だった。親熊と小熊が草を喰みながら登山道の方へ向かっているようだった。三角点で逢った登山者が教えてくれたのはこのことだったのかと思いだした。今回に限って熊よけの鈴を携帯していなかったのも、何となく心配になった。妻は鈴を持ってこなかったことを大変後悔していた。2~3分後に後ろから4人の若者達がカランカラン音を立てながら上がってきた。私が「あそこに熊の親子がいますよ」と右下を指したところ、彼らも一瞬驚いた様子だった。熊よけの鈴を身に付けていない私と妻は、彼らの後に続いて登ろうと頑張ったが、その距離はだんだん離れていくばかりだった。草を喰みながら登っている熊の距離はだんだん近くなった。しばらく休憩を兼ねてハイマツの中に隠れていたが、そのまま隠れていても時間が経つばかりだったので、熊の方を見て見ぬふりをしながら歩き出した。熊は臆病な動物だから、人間が攻撃しない限り危害を与えることはないとは聞いていた、私は熊よ

けの鈴の代わりに口笛を吹くことを咄嗟に思いついた。「もしもしカメよ」や「雪山賛歌」など頭に浮かんだ唱歌を口笛で吹きながら山荘を目指した。いつの間にか熊は見えなくなった。無事に薬師岳山荘に着いたのは15時40分だった。途中休憩。休憩もいれて朝から8時間40分歩いていた。思えばサラリーマンの1日の勤務時間を歩き続けたのだった。これが今日の仕事だと思った。

### 1つの布団に2つの枕

やっとの思いで薬師岳山荘の指定された寝場所にザックを降ろした。不思議に思ったのは、敷布団の上に掛け布団と毛布1枚、その上に枕が2つ置いてあることだった。ここだけかと思って隣を見ると隣も同じだった。私は、登山者の中には低い枕がいい人と高い枕がいい人がいるから、高いのいい人は2つの枕を重ねて使っていいという配慮かと思った。ところがそうではなかった。1つの布団に2人が寝るためだとわかった。かつて富士山に登った時に7合目の山小屋で、1つの布団に、頭と足と互い違いになって寝せられたことがあったのを思い出した。夫婦や親子、同性同士の友人の場合はそれでいいとしても、見も知らぬ他人もと1つの蒲団に寝せられるのだろうかと思った。結果としてその日の宿泊客は1つの蒲団に2人寝なければならぬほど多くなかった。夕食後に調整され、1つの蒲団を1人で使うことが出来た。私は2つの枕を重ねて使うことにした。「山小屋では人命保護の為に宿泊を希望する登山者を断ることはできない」と隣の人が教えてくれた。最も多い場合を想定して2つのまくらが置いてあるのだと理解した。

7月・8月の登山シーズンの土曜・日曜・祝祭日など登山者が多い日の宿泊を伴う登山はこれらなるべく避けようと思った次第だった。

### 2日の女性に元気をもらう

私と妻の隣に寝場所を指定されたのは、大分から来られた2人の女性だった。1人は60歳前後の小柄な女性、もう1人は40歳前後の大柄な女性だった。この2人は九州の山で知り合ったという。話しているうちに同じ九州から遠路はるばるやって来たよしみで意気投合するようになった。2人は、別府港から神戸港に上がり、その後高速道路を5時間飛ばして折立まで来たという事だった。私たちと同じように、「生涯の目標として百名山を目指しています」と言われた。

年配の小柄な女性は、だれにも気軽に話しかけるタイプで直ぐにその場を和ませる才能の持ち主だった。私たちに、何の遠慮もなく突然に「夫婦喧嘩はしますか」とか、「ご主人と奥さんはどちらが強いですか」とか質問された。自分の家庭については、「子供が独り立ちした後は、夫は夫、私は私、お互いに全く干渉なしの別行動です」と言われた。夕食後に、私が常備の胃腸の薬を飲もうとすると、「こんなところで精力剤を飲んでどうする

んですか」などと、近隣の人をも笑いに巻き込むようなことを次々に発せられた。その小柄な女性は大変健脚の持ち主だった。私たちは折立からこの山荘に辿り着くのがやっとだったのに、「昼間に薬師岳には登ってきました」と言われた。日頃のトレーニングとして、「毎日20Kmは歩きます。時間を調整して週に1度は2人で九州内の日帰りできる山に登っています。去年は100Kmマラソンにも出場しました」と言われた。能動性肥大と云うが、人間の能力はトレーニング次第では、それほどまでに力を発揮することができるようになるのかと感心させられた。古希前後の私と妻にはそれほどハードなトレーニングはプラスよりマイナスが多いという心配が先に立つが、それにしても私たちは日頃からのトレーニング不足を痛感した。毎朝の50分くらいの散歩だけで「登るのが大変な百名山」の1位、2位、3位、14位の黒部五郎岳、鷲羽岳、水晶岳、薬師岳に登ろうという考えは安易すぎると反省させられた。

### 9月10日(水)

#### 薬師岳山頂からは日本の名峰がずらり

朝起きてみると雲ひとつない晴天だった。6時15分にザックは薬師岳山荘に置かせてもらって空身で出発した。7時20分には薬師岳の頂上に立つことが出来た。気温はマイナス2度で風が強かったので防寒に雨具を着用して登った。多くの登山者が大分の2人と同じように昨日のうちに登られたと見えて、私と妻以外に朝の登山者は誰もいなかった。従って、山頂は私達2人の貸し切りだった。上空はもちろん下方の山々にも全く雲やガスは架かっておらず、文字通り360度が見渡せた。はるか彼方には富山湾が青々と横たえていた。風を避けて大きな岩の南側の陽だまりに腰を下ろして周りの山々を何度も見回した。北の方から右回りに、あれが以前登った剣岳、あれが白馬岳、あれが五竜岳、あれが明日登る予定の水晶岳、鷲羽岳、そして南側の槍ヶ岳、常念岳、その向こうが奥穂高岳、焼岳、さらに西側にあるのが笠ヶ岳、その右が今回4番目に登る黒部五郎岳、と知っている限りの日本百名山を指さしながら見とれていた。妻は、「このままこうしていつまでも連山を眺めていたい」と云うが、そういうわけにはいかなかった。そろそろ下りなければと思っているときに登って来た青年にお決まりのツーショットをお願いした。

午前8時には後ろ髪を引かれるような思いで下山を開始した。下山の途中に、登るときには気付かなかった大きなケルンがあったので立ち寄ってみると、例の愛知大学生13名の遭難した場所だとの説明があった。砂丘状態で学校の運動場からの広さだった。寒波が押し寄せ、猛吹雪で視界が効かず、彷徨っているうちに遭難死したと説明されていた。それにしても今日は晴天で、私たちは本当についていると思いつつ、自然の偉大さと



自然の脅威の両面を改めて思い知らされた。

午前9時丁度に薬師岳山荘に下りついたときには、既に登山者は皆出払った後だった。預けていたザックを受け取って9時10分に出発した。太郎平小屋に着いたのが11時20分。小屋の前のベンチ腰掛けて、暖かいものが欲しかったので、並うどん1杯(700円)を妻と半分づつ食べて12時に出発した。途中、どっしりとした広大な薬師岳を「あれが山頂、あれが避難小屋」と何度も振り返りながら、沢沿いにある薬師沢小屋に下った。薬師沢小屋に着いたのは15時だった。今日も朝の6時15分から午後3時まで、8時間45分歩いたことになる。



薬師沢小屋は文字通り沢沿いにある小屋で、寝場所を川側に指定されたので熟睡できないと思い、睡眠薬を飲んで休むことにした。

この後、水晶岳、鷲羽岳、黒部五郎岳に登り9月14日には帰熊の予定です。(後編の報告は次回)

## 【北アルプス・槍ヶ岳】報告書

(熊本高校山岳部夏季合宿登山引率より)

14310 池田清志

- 期日 平成26年8月2日(土)～7日(木)
- 集合 交通センター19:50 集合  
解散 交通センター8月7日 解散
- 登山場所 長野県 北アルプス山系(槍ヶ岳)
- 日程・コース  
8月2日(土) 熊本交通センター(20:20)・高速バス[名古屋行]発 ⇒ [車中泊]  
8月3日(日) 7:29名古屋名鉄バスセンター着、⇒JR名古屋駅・トヨタレンタカー  
08:00発(高速中央道)約2.5時間、⇒11:14松本駅 11:40・松本電鉄 12:09 ⇒新島々駅  
12:40 12:45上高地行シャトルバス 12:55発  
⇒(約1時間)⇒13:58上高地バスセンター着、14:25上高地発～15:28明神館～16:23徳沢～18:10横尾山荘〔泊〕生徒はテント泊  
8月4日(月) 横尾山荘6:20発～7:15一ノ俣分岐 7:25～8:02槍沢ロッジ～9:20ババ平～9:52水俣乗越分岐～10:45雪溪～(昼食)11:15～11:30天狗原分岐～11:55(2400m)【ガスが濃くなる13℃】～13:11(2670m)～坊主岩小屋～13:20(2700m)13:30～殺生ヒュッテ横【ガスと小雨】2850m～15:30槍ヶ岳山荘〔泊〕、

8月5日(火) 槍ヶ岳山荘7:30発～⇔8:15槍ヶ岳【ガスと小雨と風】8:30～9:20天狗原分岐手前～10:28水俣乗越分岐～11:10ババ平～11:40槍沢ロッジ～13:15横尾山荘～14:40徳沢園～15:56明神館〔泊〕生徒は素泊り・自炊

8月6日(水) 明神館8:32発～9:12上高地・ビジター10:00～10:15バスターミナル10:45～11:55新島々駅～12:35松本駅(昼食)～トヨタレンタカー13:44～16:16名古屋駅17:20名古屋名鉄バスセンター(3F5番乗り場・合流)、フリータイム(夕食)～19:40再集合、20:20高速

8月7日(木) 熊本着(7:29交通センター→熊本高校、後片付け、解散)

- 参加者 部員4名、顧問2名、及び廣永峻一  
三宅厚雄ファミリー3人 合計10名
- 参加費 ①交通費： 高速バス代往復21000円、レンタカー料金/往路4062/復路4727、松本電鉄(松本-新島々)とバス代(新島々-上高地)の往復4900  
小計(往路のみ17012、往復34689)  
②宿泊費：キャンプ場使用料一人(700,1000)、山小屋代[1泊2食](9800)  
生徒：9200(700+1000+7500) 明神館は素泊まり7500 大人：29400(9800×3)  
③食料費など：生徒：1700(3日の夕食から6日の朝まで8食分)、  
合計(交通費+宿泊費+食費)：  
生徒：45589円、 大人：63989円  
\*以下、顧問の感想・一言を載せます。

## 夏季合宿回顧録特別寄稿

熊本高校山岳部顧問 金子剛

山岳部の顧問になり、初めて迎えた夏休み。前期課外も一段落し、ほっと一息つけるところだろうが、残念ながら今年はそうはいかなかった。合宿が目前に迫っていたからだ。自分の人生において「北アルプスに登る」ということはまずないだろうと思っていた。しかし、ひよんなことから山岳部の顧問になり、合宿で登ることになったのだ。合宿当日を迎える間、不安しか抱かなかった。自分のような初心者が登ってもいいのだろうか、そもそも登りきることができるのだろうか、と考えてばかりだった。だが、実際に山に登り始めると不安よりも楽しさの方が増してきた。雪溪や急角度の登りに苦労したのは確かだが、雄大な景色や生徒たち、そして行き交う登山者の声に励まされ、何とか登りきることができた。さまざまな人・ものに助けられながら登りきった達成感はいままで味わったことのない喜びだった。ただ、槍ヶ岳の頂上に登った時は雨風が強く、視界も不明瞭で景色は何も見えなかったのが残念である。しかし、もし快晴で下界の様子が見えるようであったなら、若干高所恐怖症である私は頂上にたどり着

けなかったかもしれない。その点ではよかったのかもしれない。さて、夏季合宿を終えて、少しは山岳部顧問らしくなれたのだろうか。残念ながらまだまだだな、と思う。登山の経験を積み重ねながら、徐々にでも山岳部顧問になれたらよいと思う。

## 夏の合宿（北アルプス）を終えて 顧問 池田 清志

熊本高校山岳部の夏合宿で北アルプスに行けるのは10年ぶりになるかと思います。例年インターハイ出場があり、そのためインターハイの8月上旬はつぶれていました。去年と今年は幸か不幸かインターハイ出場を逃したので北アルプスのチャンスができました。ひさびさに訪れたチャンスでもありました。これまで生徒が北アルプスに行きたいと希望しても、ダメだったのです。さらに、今回は高体連登山部 OB の廣永先生だけでなく、三宅先生ファミリー3人も同行を希望され、合計10人のツアーとなり、にぎやかで楽しいものになりました。



出発まではいくつか紆余曲折がありました。一時はJR中央線が大雨・土石流で不通となり、長距離バスも予約満席で取れずの事態になり、あきらめムードが出ました。しかし、レンタカーという手があることに気づき、かえって、低料金の旅費で済むことになりました。ただ、唯一残念だったのは天候でした。今年は雨が多く、私たちも入山後がずっと曇天～雨天でした。このため予定していた燕岳／中房温泉までのコースを断念し、上高地へ引き返さざるをえませんでした。この時期入山していた登山者の多くが引き返したり、途中下山をして上高地周辺の山小屋はあふれていました。しかし、ガスの中、槍ヶ岳の頂上に立てたことは生徒たちにとって、記憶の中に残る財産となった事でしょう。

## 雲南省花園ハイキング旅行 報告

14462 宇都宮信夫

今回の旅行はシーズンが雨季のために3大名峰を眺めることは難しい事でしたが花見学についてはシーズンとなり、花の見学を中心としたハイキングを目的としました。しかし花園が3000m以上の高地となるため全員が元気に帰国できることも重要なことでもあり、メンバーの高山病によるリ

スクを避けるため、ゆとりのある日程にしました。

① 参加者全員9名

② 日程 8日間 2014年6月20日～27日

### 地球上の最大規模を誇る花園

中国の雲南アルプス3大名峰は玉龍雪山・白馬雪山・梅里雪山で特に梅里雪山は人類未踏峰の山の山として崇められ、標高6000m以上の山が13座以上並ぶ、中国南西部にそびえる長さ30kmの山群の総称です。

雲南省は中国南西部にあり、中国の土地面積の4%しかないのに、中国の植物の半分以上の約16,000種の高等植物があります。まさに「植物王国」であります。中でも美しい花を開く園芸的観賞価値のある植物は多様で、ツツジ科、サクラソウ科、リンドウ科、ゴマノハグサ科のシオガマギク類、ケシ科等は天然の花の展示場といえます。シャングリラの山岳地帯は3,000mを超える場所で、高山植物に覆われた景観となっています。そこには、例えばツツジ属（シャクナゲ含む）は中国にある530種以上の中の約200種があり（日本のシャクナゲ約40種類）、リンドウ属は240のうち110種が、サクラソウ属300以上のうち100種があります。

### 世界の花の三分の一が雲南省に集まり

特に探訪した地帯が宝庫であります。そして、チベット族やナシ族の人々の暮らしや風習の一端を垣間見ることができました。

#### 1日目

福岡発（09:50）から上海を經由して麗江着（21:20）まで、ここは標高が2400mのために、これから旅行するための高度順応地としての出発点となりました。

#### 麗江（ナシ族） 2400m

1997年、**世界遺産**に登録。街は800年前、南宋の時代に作られ、かつて茶馬古道の要所としても栄えました。古城内には三百を数える石の橋、澄んだ水路が幾筋も流れ、通りに敷き詰められた石畳は幾多もの歴史を刻み込み美しい光沢を放っています。古城の中心、四方街では民族衣装を纏った地元ナシ族の女性たちが円になって踊る光景も。おしゃれな民族雑貨や民芸品店が軒を連ね、それらを見て回るのも楽しい場所です。灯りが古城を照らす、夜の散策もできました。

**茶馬古道**（ちゃばごどう）とは雲南省で取れた茶（磚茶）をチベットの馬と交換したことから名付けられた交易路です。

7世紀にはすでに交易が始められ、20世紀中ごろが流通の絶頂期と言われています。雲南省南部からチベット、ミャンマー、ネパール、インドなどへ抜ける幾つかのコースがあります。四川省を起点とするコースも含められ、主な交易品は雲南地域より塩、茶、銀製品、食料品、布製品、日用品など。チベット地域より毛織物、薬草、毛皮など。チベットを經由してインド・ネパールで生産

された物資も雲南に届いたと言う。茶馬古道の要衝といわれる有名な都市にラサ、徳欽、麗江、大理などがあります。

このような交易は過酷な旅で1度出発したら3から5年間はかかり途中では事故や盗賊などにあいながら無事に帰ってくるのは3分の1程度の人だったそうです。それでも利益は無くなった人の家にも分配されたといわれています。

麗江の位置としては麗江の東はミャンマーになりチベット高原を水源とする3つの川(長江、メコン川、サルウィン川)が北から南へ3000mから1000mの谷間を並行して流れています。

これらの川は長江は上海へ流れ、メコン川はラオス、タイ、カンボジア、からベトナムまで流れています。サルウィン川はミャンマー、タイからベンガル湾へ流れています。

中国の黄河も含めると東南アジアの人々はこのチベット高原から流れる川によって生活がなりたっていると言ってもよいのではないのでしょうか。

## 2日目

この街から玉龍雪山(5596m)を眺めることができますが、あいにくの曇り空で見えることはできませんでした。玉龍雪山は麗江市街地の北15kmほどのところにあり、南北約35km、東西約13kmの公園区域内に、13の峰があります。また、北半球で最も南に位置する水河があります。バスの降り場は標高3356m。ロープウェイに乗りかえ標高4506mへ。そこから標高4680mを目指して、その後は自力で174m登ります。高地なので、ゆっくりしか動けず登るのに1時間かかりますが今回は天候に恵まれず登りませんでした。

天気が良いければ絶景を見る事が出来ます。

## 3日目

麗江からシャングリラまでの移動日になります。途中の虎跳峡(こちょうきょう)の見学です。峡谷の両岸には高山がそそり立ち、世界でも有数の深い峡谷となっています。左岸(西側)には哈巴雪山が、右岸(東側)には玉龍雪山があり、谷底から山頂までの高低差は3790mに達します。虎跳峡の両側の岩石は片岩と大理石からなり。川幅は60mから80mほどで、最も狭まった部分は約30mほどしかありません。その両岸の断崖は2000m以上に達して。峡谷の上流から下流までの落差は200mあまりで、水流は急であり、航行不能であります。虎跳峡という名の由来には、金沙江の渇水の時に山から下りてきた猛虎が、峡谷の中の岩に飛び移り、そのまま対岸に跳んで渡ったとの言い伝えがある。また、川の中には虎が跳ぶときに踏み台にしたとされる「虎跳石」という岩もあります。ここでは川沿いの岩を切り開いた道を往復5kmほどの歩きとなりましたが谷底になりますので高度は低く歩くのには問題ありませんでした。

## 海外登山に出掛ける時の 注意事項

14462 宇都宮信夫 記

- 準備は整っていると思いますがツアー前には体調を整えておいてください。
- パスポートは旅行中、自分の身から離さず保管してください。

### ◆ 高山病対策

高山病とは高所に登ったときの低酸素、低気圧などによる体の反応で、初期状態としては頭痛、息切れ、倦怠感などの病状があらわれます。さらに吐き気、不眠、下痢などと病状が進みます。

一般的には心肺機能の高い人は高山病にかかりにくく、低い人ほど懸りやすいと言えます。その日の体調や登り方も大きく影響しますので、いつ、どこで、誰に病状が出るかを予測することは難しいことです。

標高が2000mくらいからそろそろ病状が現れてもおかしくなく、3500mを超えると程度の差こそあれ、ほとんど何らかの病状がでできます。

対策としては 水の補給とゆっくりと登ることが大切です、病状が進んできた場合は下山するしか解決方法はありません、酸素吸入は一時しのぎに過ぎません。

「せっかくここまで来たのだから」「頑張れば何とかなる」そんな甘えは通用しません、くれぐれも無理はしないこと、これが高所を歩く鉄則です。

- ◎体は温かくする。
- ◎ゆっくりと深く深呼吸をする。
- ◎鎮痛剤は可ですが、睡眠薬は不可です。
- ◎アルコールは適度に。
- ◎飴はよいです。

## 山岳保険のお勧め

既にご加入の方には更新の時期のお知らせ等が届いているかと思いますが、近年山岳遭難が多くなり、保険の加入が必要な状況があります。幸いにも熊本支部ではその保険を利用する事故等は起っていませんが、山に登るものとしては必要不可欠なものと思われまます。山岳保険はいろいろありますが、日本山岳会の保険と日本山岳協会の保険等があります。山登りの形態にはいろいろありますが、ご自分のと登山形態に合わせてご加入抱くようお勧めいたします。

## 皆さん元気ですか？

## 最近の山行状況報告。

13852 石井 文雄

- H25.12.25 雪の久住山へ牧ノ戸の駐車場へ積雪  
快晴にて楽しい山行
- H26.1.2 大曲より雪の久住山へ非難小屋より  
上部は風雪強し午後は収まり、九住  
山山頂にて木曾氏と出会い以後同行
- H26.1.5 瀬の本登山口より雪の荒井川岳へ扇  
が鼻岳へ非難小屋往復 加藤明氏
- H26.1.11.. 菊池溪谷雪の沢、沢登り、沢へ峠
- H26.1.14. 北向山 南郷往還の杉並木の中を歩  
く、安場、千々岩、3名
- H26.2.2 大曲～久住山～牧ノ戸へ・・・積雪期。  
の山行予定が吹き溜まりのみの雪、
- H26.2.15.16 次郎丸、竜ヶ岳～念珠岳・宮崎支部  
との合同山行、眺望を楽しむ。
- H26.3.2 菊池溪谷 広河原等散策
- H26.3.8 岩宇土山～上福根～オコバ谷、
- H26.3.15. 菊池溪谷ツームシ山手前までの散策
- H26.3.16. 馬見山、古処山系、・・・支部山行
- H26.3.23. 仰帽子山 元井谷駐車場～峠～仰帽  
子山～仏石～1周（福寿草）
- H26.4.19.. 国見山 茂田井～岩峰～国見山～  
谷ルート～林道～茂田井駐車場
- H26.4.26 目丸山 カタクリ、支部山行
- H26.4.29 大観峰、瀬の本、雀の地獄、サクラウ、  
リュウキカ、イリウ、ツバツツジ、
- H26.5.2.. 鹿納山 お化粧山登山口～お化粧山～  
鹿納山 往復 アケボノツツジ
- H26.5.5. 大崩山 宇土内谷登山口～大崩山
- H26.5.11 白鳥山、時雨岳 唐谷登山口～白鳥山  
～時雨岳～唐谷登山口 6名 シヤクク、
- H26.5.18 下泉水山～黒岩山～牧ノ戸峠 ミヤマキリ  
シマ、シヤクガ、ギンラン、支部山行
- H26.5.24 球磨水源橋～球磨川水源へ 往復
- H26.5.29 大幡山 夷守台キャンプ場（第1登山  
口）～山ノ神～丸岡山分枝～大幡山  
秋津山の会の人と下見 5名
- H26.6.8.. 獵師山 オオヤマレンゲ 支部山行
- H26.6.13 菊池溪谷 登山道のキイチゴ等の除去
- H26.6.14 根子岳 前原ルート～東峰～天狗の肩  
往復、オオヤマレンゲ 複旧工事中
- H26.6.24 菊池溪谷 沢登り尾根まで、カヤ、  
キイチゴ等の除去 シイトウ
- H26.6.28 菊池溪谷 清水谷橋より、沢登り  
登山道の、カヤ、キイチゴ等の除去
- H26.7.19 菊池溪谷 タコダケ カラナデシ、
- H26.7.26 菊池溪谷 清水谷橋より沢上り尾根  
經由 カキラン オナエシ キツネカミツリ
- H26.7.27 鞍岳 森林帯林道まで、雷・豪雨にて  
途中下山、支部山行
- H26.7.29 祖母山、奥岳溪谷 ウルシワ谷沢登り
- H26.7.31 群岳（長崎） 調査交差登山、6名
- H26.8.14 菊池溪谷 ナツエビネ、イタハコ
- H26.8.23 菊池溪谷 清水谷橋より沢上り尾根
- H26.9.9 龍王岳 1175m、～矢岳 1131m下見  
（秋津山の会）同行 ツシコウモリウ、
- H26.9.11 矢岳 1131m～龍王岳 1175m山行  
（秋津山の会）宇都宮氏同行 炭化木
- H26.9.14 清水峠～駒返し峠 定例山行キツリネ
- H26.9.18 救急医療（三角巾、テーピング）秋津  
公民館、松本氏支部長より講習。
- H26.9.21 きのご観察 菊池溪谷 ツルニンジン
- H26.9.27.28 第7回脊梁トレールラン大会 13名
- H26.10.4 高岳天狗の舞台下へ森林巡視登山
- H26.10.11.12 国見山、1018m～三国山 993m
- H26.10.18 由布岳 南登山口より山頂一周
- H26.10.19 白岩山、水呑の頭、灰ノ木の頭、往復、  
向坂山、ゴボウ畑
- H26.10..25 三浦雄一郎講演、受講 80歳にてエバ  
レスト登頂 85歳 チョウオウ 8.201
- H26.10.26 祖母山、北谷～風穴～山頂～国観峠  
～北谷、木曾氏含め 11名 ツリノドリ
- H26.11.8. 菊池溪谷 紅葉の写真撮影
- H26.11.11.. 菊池溪谷紅葉の沢歩き 写真撮影
- H26.11.22.. 菊池溪谷紅葉の沢歩き、 写真撮影
- H26.11.27. 鶴見岳 鶴見岳西登山口～馬の瀬～  
鶴見岳山頂～一気登山道～駐車場

以上現在までの山行記録、思いついたら即実行  
で、雪景色、山の花、きのご、紅葉の写真撮影に  
行っています。今年は馬年、私の6回目の干支、  
朝は、早く出かけていますが、知られた山の駐車  
場は、満車。今後も花を求めて、自然観察を続け  
て行きます。車の燃料費は高いですが、しみみな  
山行は止められません、いよいよ雪の季節、寒さ  
も厳しくなると思いますが、寒さに負けず、野鳥  
や自然観察を続けて行きたいと思えます アケボ  
ノツツジを見に行った時、今年は豊作だと、聞き  
ましたが、福寿草、サクラウ、イリウ、アケボノツ  
ツジ、ミヤマキリシマ、オオヤマレンゲ、ナツエビ  
ネ、キツネノカミソリ、フクゲセンノウ、女郎花等 沢山  
咲いていました。今後も冬景色を楽しみながら、  
野鳥や草花の開花を思い、山行を続けたいと思  
います。

健康管理 三浦雄一郎氏も言っていました、趣  
味を持ち、目標を持って努力する。そろそろ足が  
衰える時期、朝起きる前に仰向きのまま、足を浮  
かせて、数分、腰を浮かせる等を繰り返し、腹を  
マッサージし、腹筋を鍛える、ラジオ体操、早足で  
歩く、軽いジョギング、立っている時、膝、背お延  
ばす、階段上り こけない様に瞬発力を付ける（ハ  
ウトテス、卓球等）各自それぞれ、心掛け、工夫  
されて永く山行を楽しみましょう。

## 近況を報告します

12909 永谷 誠一

- ① クラブの皆さんに呼びかけ熊野古道を歩いてきました。

10/24 新門司港よりフェリーで泉大津港へ、10/25 まず、高野山で弘法大師の聖地を訪ね、そして熊野本宮大社へバスで移動した後、熊野古道の一部である「大日越」を歩きました。杉の美林の中、よく踏み固められた山径を登り、湯峰温泉へ下り、この日の宿所である「小口自然の家」に投宿、ここではアメリカ、フランス、ドイツのハイカーと一緒に。この「小口」は明日歩く小雲取越、明後日の大雲取越の入山口となっています。10/26 宿舎地区の小雲越ルートに取り付きます。民家の庭先を通り抜け、古道に差し掛かります。道中には桜茶屋、石堂茶屋、松畑茶屋跡が点々とあって往時の熊野詣での盛況が偲ばれます。程よい距離で昔のままの苔むした石段等も随所に現れ、歩き易い古道でした。この日は近くの川湯温泉の民宿泊です。目の清流大塔川河原の露天風呂に行き、水着を着てつかり、風情を楽しみました。10/27 は大雲取越です。このコースが最も難コースで登り下りも多く、標高800mの山越えでした。昔時の苦勞が想像されました。このコースも楠、久保旅籠跡や地藏小屋、再見小屋、登立小屋跡があり旅人の便を図っていたことでしょう。ロングコースを下り終わった所が那智大社でした。近くにはあの那智の大滝が落ちています。この日は勝浦温泉、「ホテル浦島」の洞窟温泉を楽しみました。

- ② 11/6~9 にかけて岡山県北部に位置する「蒜山」と鳥取県「大山」に行ってきました。蒜山は初山行でした。マイクロバスにて蒜山に至り、蒜山高原休暇村に3連泊でした。11/7 蒜山三山の南端の「下蒜山」から登り始めました。ガイドブックの通り入山後急登が続き、鎖が付けられています。下蒜山(1100m)は展望に優れた山頂でした。前面には中蒜山が聳え、我々を呼んでいるようです。熊笹の気持ち良い稜線を鞍部まで下り、登り返しです。中蒜山も鎖が取り付けられ、山頂(1122m)には避難小屋が経っていました。ここで昼食後上蒜山を目指し一気に下り急登し山頂(1202m)へ記念撮影後眼下の蒜山高原へ、段差の大きい階段の下りには手こずりました。

一昨年より右眼緑内障の為、視野が狭くなりボーッとしか見えなくなった。この下り、前者の肩を借り、慎重に足を運ぶ結果、遅れてメンバーに大変な迷惑をかけることになりました。11月12日で88歳となり、このような状態では、山を諦めざるを得なくなりました。

60年間山と親しみ、色々なことを教えてくれた山ともいつかは別れなければならないと自覚しておりましたが、大山山麓に沈み行く真っ赤な夕日を拝み、山にお別れをし、お礼を述べました。其れで翌日の大山登山は断念し一行を登山口で見送り、足立美術館を訪ね、美術鑑賞のひとつときを楽しみました。

これからは地元山都町でフットパスのコースづくりに専念し、町全域をフットパスコースで網羅し、町内外の方々に山都町の自然の素晴らしさをPRしていきたいと念じております。村里を歩き廻るのも楽しいものです。

今は唯、日本山岳会熊本支部の益々のご発展を切に祈るのみです。今日までのご厚誼に深く感謝いたしております。

## 夏山登山

黒部五郎岳・鷲羽岳・水晶岳・薬師岳

H26.8.16~8.22

14675 千々岩 泰子

昨年、唐松岳から鹿島槍縦走の折、悪天候の為遠見尾根を下山して民宿に一泊。たまたま函館の方と同じ民宿で山談議に盛り上がり、いつか登りましょうと軽く約束しました。ところが今年ミヤマキリシマを見に来るという事で、6月に高岳や久住の山を案内。その流れで8月夏山に行く事になりました。

当初は裏銀座の予定でしたが、友達希望で雲の平を取り巻く山々を廻る事になりました。打ち合わせは電話とパソコンメールでやり取りを繰り返して、折立からの周回コースに落ち着きました。

北ノ俣岳、黒部五郎岳、鷲羽岳から水晶岳に登り、雲の平を経て一度薬師沢小屋まで下り、その後薬師岳へ登頂して折立に下山と大変な行程で、自分で計画したものの遠征5日というのは初めてで、修行のつもりで臨みました。

友達と富山駅で待ち合わせ、おばさん2人合わせて『130歳』の山行が始まりました。翌日バス停に着くと「昨日からの雨の為折立まで行かないかも知れない」と運転手から一言。いつもの夏と違い高気圧が弱く、停滞前線が活発で悪天候続き、山の天気も期待出来ない状態でした。バスの乗客も少なく淋しい出だしでした。

折立に近くなるにつれ雨模様、登山口に着いた時は雨と雷、乗客の中にはそのまま帰る人もいました。又下山した人からは「雷は凄いいし、登山道は滝のようになっている」と聞き。お互い来年は来られるか判らない年だし、予定変更は出来ない。予報では雷雨も午前中という事で雨具を着て歩き始めました。雷が落ちませんようにと祈

りながらの登山。するとだんだん雷も遠くに聞こえる様になり、三角点に着く頃には雨も上がり花を見る余裕も出来て、小屋が見えて来た時はほっとしました。太郎平小屋には登山案内所が有り、登山計画書を提出すると「水晶岳まで行くなら翌日は黒部五郎小屋泊ではなく三俣山荘泊、翌日は薬師沢小屋泊にした方が良い」と富山県山岳警備隊の方から助言して頂き変更する事にしました。



太郎平小屋から三俣山荘まで行動時間は12時間と長く。翌日「雲の平山荘は午後2時がタイムリミット」と言われていて、少し遅れたので雲の平で宿泊しました。薬師沢までの下りはとても急で今回の山行で一番の悪路、翌日にして良かったと思いました。山頂で展望が良かったのは黒部五郎岳だけ、楽しみにしていた水晶岳は風雨、槍ヶ岳が見えなかったのがとても残念でした。しかしなだらかな稜線歩きや、ハクサンイチゲなどの花々が咲くお花畑もたくさんあり、あこがれの雲の平からの水晶岳は素晴らしくきれいでした。又、計画した全て山々に登頂出来、充実した山行となりました。

入山初日の17日は槍ヶ岳などで遭難があり、太郎平小屋では薬師沢で遭難した方が警察の事情聴取を受けられていて、私の家族も随分心配していた事と思います。

広島のと砂災害や山での遭難が多かった今年の夏、無事に下山できた事に感謝です。温暖化のため、どんな山でも大雨などで災害が起こりえます。御嶽山のような火山噴火の可能性がある以上、十分な情報収集と堅実な登山計画、そして体力が必要と思いました。

又、女同士いろいろな話をしながらの登山は楽しく、いつかは北海道にと思っています。同行して頂いた友達と毎年遠征に送り出してくれる家族に感謝します。

## 「山を眺める旅」

8605 門脇 愛子

山はテレビの山番組でのみ楽しむこの頃ですが、もっと実際に身近に眺めたいとあるツアーに参加しました。

“谷川岳ロープウェイ・八海山ロープウェイ・日本最長の苗場ゴンドラ乗車・奥只見湖遊覧と絶景！空中散歩 紅葉狩3日間”というツアーです。幸い一緒に行って下さる方があり（ツアーは1人参加できません）2人で参加、九州各県と山口から38名参加、内熊本から6名の参加でした。

羽田から関越自動車道を北上、インターを出たり入ったりして新潟、群馬、埼玉にまたがる多彩なコンパクトな観光内容でした。私にとって最大の目的は谷川岳でした。以前から東京から「はとバス」で日帰り出来るので何回か申し込んだのですが台風とか定期点検等で振られ続け、やっと念願が叶いました。

観光としては天神平までロープウェイでしたが自費でリフトに乗り天神峠まで登り 指呼の間に谷川岳頂上、おきの耳、トマの耳を眺める事が出来、感激でした。このあたりの紅葉は終わっており晩秋の気配、でも山麓は から松の黄金色のとりどりの赤が混ざり、美しい山紅葉、特に苗場ゴンドラの空中から見た紅葉は正に絶景でした。

また、八海山ロープウェイでは越後三山のひとと八海山の特異な山頂を眺め、登山欲をそそられました…。折しも登山帰りの女性に会い、話を聞いて楽しみました。地方にはそれぞれの良い山があるものですね……。

その他、奥只見湖から遠望した初冠雪の荒沢岳、車窓から眺める上越国境の山々、ガイドの説明を聞きながら想いをはせました。

### 参加者募集 第8回熊本宮崎支部交流会

毎年実施されている宮崎支部との交流会は、今年は宮崎支部の担当で下記の要領で開催されます。昨年は熊本の担当で天草の念珠岳へ登りました。今回も皆様の多数の参加を期待しております

1. 期日 平成27年2月14日(土)～15日(日)
2. 場 所 宮崎県日南市北郷温泉 記念山行  
「小松山(988m)・男鈴山(783m)」
3. 参加費 宿泊費・交通費については検討中・  
15000円程度予定
4. 交 通 多数の場合貸し切りバス利用・又は  
乗り合わせで移動します。

## 会務報告 (9月～11月)

### ☆ 平成26年度第1回熊本市水資源

#### 「水源の森づくりボランティア養成講座」

1. 期日 9月7日(日) (担当 田北芳博)
2. 場所 久木野・熊本市造成地

### ☆ 第13回登山教室 阿蘇南外輪山

1. 期日 9月14日(日) 小雨実施
2. 場所 南阿蘇外輪山 「清水峠」～「駒返峠」
3. 参加費 3500円 (保険加入者は2700円)
4. 参加者 会員 13名 一般参加者 12名
5. 概要 天気青朗の清水峠でバスを下車、準備体操で身体を整え最初の目標地無線中継所のある展望の素晴らしい台地に到着、ここで景色を満喫しながら工藤講師による阿蘇外輪の「峠」と「越え」の違い、昔の生活道路等々についての話を約20分程話があった。次の目標地の高千穂野へ向かう。この遊歩道は地元の人たちにより草刈り等の整備がなされ難なく歩行できた。最初の難関である高千穂野の登り、終わりの見えない急な坂、丸太で階段状になっているが、歩幅が狭いうえに雨で土が流されていて大変な登りとなった。頂上を過ぎたところで昼食を摂り、天神峠へと向かう。ここからは急な下りとなってクマササ、ミズナラの林の中を天神峠、多津山峠へと進み、最後の峠駒返りへ、これからの遊歩道はミズナラ、ブナの混じった樹林帯を歩く本当に心が洗われるような素晴らしい登山路である。駒返り峠で記念写真を撮り、予定通り15:20山の神に下山。
6. コースタイム 市民会館(7:30)⇒大津駐車場(7:50)⇒清水峠(9:10)～中継所(9:40)～高千穂野(11:30)～昼食(12:10)～天神峠(12:20)～多津山峠(12:53)～駒返り峠(13:35)～山の神(15:20)⇒市民会館

### ☆ 第6回九州脊梁山脈トレイルラン

1. 期日 9月27日(土)～28日(日)
2. 場所 宮崎県 五ヶ瀬ハイランドスキー場 「小川岳」～「向坂山」～「三方山」
3. 参加者 松本莞爾・安場俊郎・中林暉幸・石井文雄・山本直・金山春男・鶴田佐知子・池田清志・佐藤正樹・江島博之・松本博美
4. 概要 午後5時ごろ到着、6時過ぎから打ち合わせを行い。県岳連の皆さんと交流会を行う。翌28日は4時起床、早めの朝食を取って、各ポイントへ班ごとに出発をする。7時過ぎにはトレイルランの選手が次々と通過する。通過のチェックは約400名にのぼり、その作業はあわただしいものであった。午後3時過ぎに大会は終了した

### ☆ 第2回森林保全巡視登山 (担当 廣永)

1. 期日 10月4日(土) 大津駐車場集合
2. 場所 阿蘇「高岳」
3. 参加者 廣永峻一・石井文雄・中林暉幸  
千々岩泰子・坂西直明・佐藤正樹・金山春男・桑原リカ
4. 概要 午前9時仙酔峠の駐車場に集合し、バカ尾根を登る。高岳山頂の大鍋にて清掃作業とミヤマキリシマの保護活動を実施する。

### ☆ 第11回登山研修会「沢登り」

台風11号の為下記に延期になりました

1. 期日 10月11日～12日
2. 場所 祖母山系「奥岳溪谷」
- ☆ 第28回宮崎ウェストン祭 (担当事務局)
1. 期日 11月1日～2日
2. 場所 宮崎県高千穂市 五ヶ所
3. 参加者 松本莞爾・安場俊郎・中林暉幸  
中田良友・悦由美乃・舛田レイ子・金山春男・江島博之
4. 概要 ウェストン祭の式典に臨む。神事や郷土神楽、演芸会等が賑やかに催された。

## 12月～3月までの支部事業計画

### ☆ 平成26年度第6回「山の写真展」

時期 12月6日(土)～21日(日)  
場所 山の店「シェルパ」1F

### ☆ 第6回海外登山(旅行)報告会

期日 12月14日(日) 13時より  
会場 山の店「シェルパ」1F  
報告者 宇都宮信夫

### ☆ 平成27年新年晩餐会

期日 平成27年1月17日(土) 15時より  
場所 下通り「紅蘭亭」  
会費 4000円

### ☆ 第12回登山研修会「雪山編」

期日 平成27年1月31日(土)～2月1日  
場所 霧立山地(向坂山～小川岳)  
宿泊 やまめの里  
参加費 10000円

### ☆ 第8回宮崎・熊本支部交流会(担当宮崎支部)

時期 平成27年2月14日(土)～2月15日  
場所 日南市  
参加費 未定

### ☆ 平成27年 干支の山登山「平尾台」(羊群原)

期日 平成27年3月1日(日)  
場所 福岡県北九州市「平尾台」(羊群原)  
参加費 未定(バス代)

参加希望の方は事務局までご連絡下さい

### 秋津山の会登山講習会（講師）報告 第1回講習会【テーピングの基本】 【三角布の基本】

- ① 期日 9月18日（木）13時より
- ② 場所 秋津公民館
- ③ 参加者 秋津山の会 32名 日本山岳会 松本・安場・中林・石井・宇都宮・山本直
- ④ 講師 松本莞爾
  1. 講習準備品 テーピングテープ 1個、アンダーラップテープ、三角布 ⇒2枚 薬局にて購入可 300円程度
- ⑤ 概要 かねてから希望のあったテーピングの施術について、講習を行った。  
日本山岳会からも6名が参加し、熱心に受講。基本的な使い方を手、足等について講義をする。テーピングについて、捻挫等しやすい足首や手首の予備的補強を中心に筋の構成からその役目を含めて、テーピングの施術を実技で行う。約3時間の講習で、習得することは不可能で、特に足首の捻挫、膝の捻転などを中心に講習を行った。参加者は和気あいあい楽しく受講でき、楽しい講習会だった。

### 秋津山の会帯同登山（講師）報告

- ① 期日 平成26年9月11日（木）
- ② 場所 霧島 矢岳 1131m 龍王岳
- ③ 参加者 秋津山の会 29名  
日本山岳会講師 石井文雄・宇都宮信夫
- ④ コースタイム 秋津公民館（6:00）⇒御船IC（6:20）⇒高原IC（8:04）⇒矢岳登山口（8:45）～南面コース（9:30）～鞍部（10:28）～矢岳（10:43）～龍王岳（11:25）～炭化木の谷（12:44）～高千穂河原分かれ（13:30）～矢岳登山口（14:30）入浴⇒秋津公民館
- ⑤ 概要 各班のサブリーダーを決め、班長は各班の最後尾を歩くことにして、見守ることにした。。計画書は連絡網等よくできていた。帰りのバスの中では、宇都宮氏が無線機の使用でより安全を高めるような話をされた。講習会の参加率は素晴らしい。天候は晴れていたが、遠景はかすんで見える。秋の始まりにて、ススキの穂が出たばかりできれいだ。筑紫コウモリ草の白い花、見返り草の紫の花が群生していた。黄ガンピには黄色の花が咲き、葉の紅葉も始まっていた。紙の原料であるコウゾ、ミツマタ、ガンピを知る。矢岳で小休止の後、北尾根コースらしき分岐はわかった？・・・龍王岳で昼食を摂り炭化木の谷へ、1716年に起きた新燃岳の噴火による炭化木が沢山あった。獅子戸岳の分岐もわからないまま下山。3回の山行にて霧島連山の東面の山々が見れて感謝します。（石井記）

### 秋津山の会「新百姓山」帯同登山報告

- ① 期日 9月29日（月）
- ② 場所 宮崎県「新百姓山」
- ③ 帯同会員 中林暉幸 秋津山の会15名
- ④ 概要 秋津山の会の9月第2例会は、当初9月25日（木）の予定であったが、台風17号の接近の為、延期となり翌週29日（月）に行われた。そのため参加者も当初30数名の予定が、もう一つの行事と重なり半数の15名となったという。早朝6時出発の予定も10分前には全員揃い5時55分にマイクロバスで公民館を出発した。やがて車内に異様な“芳香”、まだ暗い中での出発だった為、誰か靴に犬の「糞」がついていたとみえ、除去作業に一騒ぎ。10分近くロスするハプニングもあった。アクセスは宮崎県日之影町から入るものと思っていたが、青雲橋近くが工事の為交通規制があり、それを避けて佐伯市宇目側からはいることとなった。そのため往復ともバスの乗車時間が4時間近くになり、山中行動5時間、バス行動8時間の長旅であった。

車内で会長挨拶の後、講師としての紹介があり、事前に要請された「歩行と休憩」についてプリントをもとに簡単な挨拶と説明を加えた。県境の杉ヶ越でバスを下車し準備体操の後登山行動に入る。登山口から杉林の中を5分も歩くと杉園大明神の社がありここから尾根筋を登る。逆の左手は傾山へと続く尾根道である。途中岩場の通過について三点確保を実施、尾根道には楓、ミズナラ、ブナの小木から大木が見事である。山頂はあまり展望はよくないが、落ち着いた雰囲気のある山である。帰路では膝の使い方などの講義をし、ゆっくりと2時間懸けて14時55分には杉ヶ越に下山した。月2回の例会山行に毎回30名ほどの参加があるという活動状況からか、隊列がとくに乱れることもなく、みなさん結構体力もあつたようだ。（帯同会員 中林暉幸 記）

### 編集後記

年3～4回の支部報発刊になって7年になります。発刊数はその後14号になりました。今回の33号は多くの方にご投稿を頂き、有難うございます。16ページ限定で行間を狭くしましたので読みにくくなりましたが、多くのご投稿には感謝申し上げます。今後も皆様のご投稿を期待しますが、是非、登山の報告や、随想、写真等お待ちしております。また事務局からの連絡やお知らせも随時掲載予定です。支部通信と共にご活用ください。（編集委員会）